

## 平成21年度末木曾馬調査 報告

木曾馬保存会事務局

平成22年2月現在の飼育頭数（飼育者と連絡が取れ、生存の確認できる馬）は152頭で、内訳は開田地区内46頭（増減なし）、木曾郡内（開田地区を除く）12頭（1頭増）、長野県内（木曾郡を除く）21頭（1頭減）、岐阜県31頭（2頭減）、その他41頭（4頭増）である。飼育戸数は68戸（増減無）で飼育頭数はわずかながらに増加しているが、ここ数年は150頭前後で増減を繰り返している状態である。また、このほかにも飼育しているが、連絡が取れない等の事由によりカウントしていない馬もいる。

登録では21年度は6頭（3頭減）の血統登録、雌2頭の繁殖登録を行った。

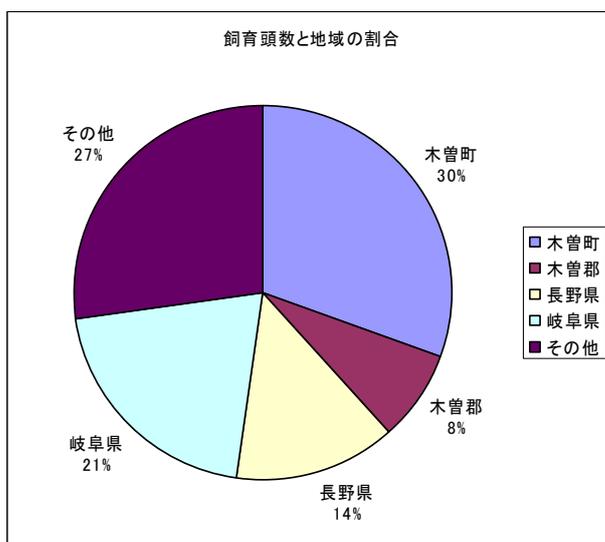
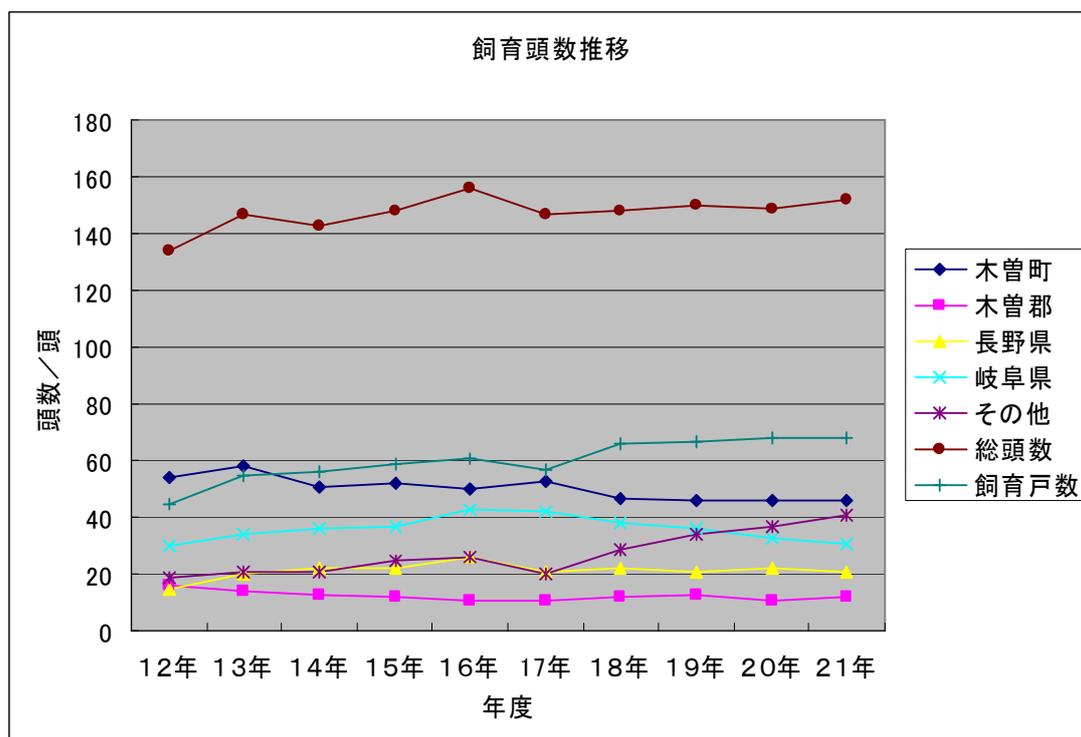
21年度の種付け状況及び22年度の出産予定状況に関して、21年度の種付け数は20年度よりも増加し、「豊桜号」6頭（1頭減）、「鈴風号」6頭（1頭増）、「栄宝号」0頭（2頭減）、「清山号」0頭（増減無）、「風恋号」1頭（1頭減）、「群司号」4頭（4頭増）、「翠寿号」7頭（3頭増）の計24頭である。一昨年から供用された2頭（郡司号・翠寿号）は順調に種付頭数を増やしている状況で、21年度の翠寿号に係る産駒は2頭誕生している。群司号は21年度4頭に種付を行っており、内1頭は受胎確認がされているということなので、誕生が待ち遠しいところであり、幸葵号の後継馬として今後も2頭の活躍に期待したいところである。22年度は木曾町内で1頭の雄馬を種雄馬候補として残している為に検査を行う予定。近親交配による弊害が危惧される中、より多くの系統を残していき、あわせて岐阜大学との連携による技術で凍結精液として残していければと考えている。また、22年度の種付予定馬の頭数は保存会員26頭、会員外5頭の合計31頭で種付け数は減る見込みである。平成22年度の出産予定数は13頭で前年よりも増加の予定。（但し、受胎確認を行っていない馬もいるため予定数を下回ることもある＜21年度の場合14頭の予定だったが6頭の生産＞）

22年度の木曾馬の販売・譲渡の状況は、生産馬の多くが公共施設だったこともあり21年度産駒は2頭のみ移動となり個人へ売却された。その他についても5頭が売却または譲渡され内2頭については所有者（飼育場所）不明となっている。これについても昨年同様、極力移動先を記入していただき、木曾馬の飼育場所や頭数がおっていけるように、さらには頭数が減った折に交配計画などが立てられるように販売をされる飼育者の方皆様に移動先の記入をお願いししたいところである。

本格的に毎年全頭飼育調査を始めてから今回で10年目を向かえることができました。調査を進めていく中でご協力をいただいている皆様にはご迷惑をおかけしているところもあるとは思いますが、今後とも木曾馬保存会の定期全頭調査へのご協力をお願いいたします。あわせて、22年度は木曾馬の登録証を発行している（社）日本馬事協会において登録規定の改定が行われる予定で、木曾系種から木曾種への戻しが多少楽になる予定です。興味のある方はお問い合わせいただければ幸いです。

## 飼育頭数の推移

	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
木曾町	54	58	51	52	50	53	47	46	46	46
木曾郡	16	14	13	12	11	11	12	13	11	12
長野県	15	20	22	22	26	21	22	21	22	21
岐阜県	30	34	36	37	43	42	38	36	33	31
その他	19	21	21	25	26	20	29	34	37	41
総頭数	134	147	143	148	156	147	148	150	149	152
飼育戸数	45	55	56	59	61	57	66	67	68	68



## 飼育頭数の割合の変化

(20年～21年度)

木曾町 (旧開田) 31% > 30%

木曾郡 7% > 8%

長野県 15% > 14%

岐阜県 22% > 21%

その他 25% > 27%

その他の地域の飼育頭数割合が年々増加している状況は昨年と変わらない。長野県全域の頭数割合の増減は仔馬の販売時期によるところが大きい。